

平成27年度第2回  
日野市総合教育会議

議事録

日野市企画部企画調整課

平成27年度第2回日野市総合教育会議議事録

日 時 平成27年8月25日 10時00分～11時05分

場 所 101会議室

出席者 大坪市長、西田教育委員長、高木教育委員長職務代理者、岡本教育委員、  
濱屋教育委員、米田教育長  
事務局＝大島企画部長、松本教育部長、田倉教育部参事、記野教育部参事  
仁賀田企画調整課長、兼子庶務課長  
田中企画調整課副主幹、三好庶務課係長、小出席務課主任  
赤久保健康福祉部長、池田子ども部長、秦文化スポーツ課長

議 事

- (1) 開会あいさつ（市長）
- (2) 議 題  
議題第3号 子ども・教育に関する市長・教育委員会共通ビジョ  
ンの策定について（資料No1）
- (3) その他

(議事の要旨)

開始 10時00分

○仁賀田企画調整課長 それでは、おそろいですので、会議を始めさせていただきます。

総合教育会議は、市長が招集する会議となっております。議事進行は市長にお願いいたします。

よろしくお願いたします。

○大坪市長 おはようございます。

ただいまから、平成27年度第2回「日野市総合教育会議」を開会いたします。

会議に入ります前に、説明員の紹介を事務局よりお願いいたします。

○仁賀田企画調整課長 今回初めて御参加いただく職員を紹介いたします。

健康福祉部長の赤久保でございます。

○赤久保健康福祉部長 赤久保でございます。よろしくお願いたします。

○仁賀田企画調整課長 子ども部長の池田でございます。

○池田子ども部長 池田です。よろしくお願いたします。

○仁賀田企画調整課長 文化スポーツ課長の秦でございます。

○秦文化スポーツ課長 秦でございます。よろしくお願いたします。

○仁賀田企画調整課長 以上になります。よろしくお願いたします。

○大坪市長 また、本日は傍聴希望者がいらっしゃいますので、傍聴を許可したいと思いますが、御異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○大坪市長 異議なしと認め、傍聴を許可します。

(傍聴人入室)

○大坪市長 では、次第に従いまして進めていきたいと思っております。

最初に一言御挨拶を申し上げます。

本日は、5月の開催に続いて2回目の総合教育会議となります。5月の会議においては第2次学校教育基本構想、そして生涯学習推進基本構想をベースに日野市の教育に関する大綱をつくっていくということを確認した上で、教育委員の皆様お一人お一人から教育に関する大綱に盛り込んでほしい内容についてさまざまな御意見をいただきました。また、私のほうからも幾つかの論点を提出させていただきました。きょうはそれらをもう一度整理、吟味して、市長・教育委員会共通ビジョンのテーマとして何がふさわしいのかを再度議論した上で、ビジョンの表現形式について確認していければと思っております。

今、8月の後半でございますが、各自治体では、早いところは既に教育に関する大綱を策定したところもあるようであります。しかしながら、日野市としては、慌てることなくじっくりと時間をかけて大綱策定に取り組んでいきたいと考えているところでございます。

教育委員の皆様からは、前回に引き続いて忌憚のない活発な御意見を頂戴し、本日が充実した総合教育会議となることを願ひまして、私からの挨拶とさせていただきます。

本日はよろしくお願ひいたします。

では、次に「議題第3号 子ども・教育に関する市長・教育委員会共通ビジョンの策定について」ということで、事務局より説明をお願ひいたします。

○議題第3号 子ども・教育に関する市長・教育委員会共通ビジョンの策定について

○仁賀田企画調整課長 それでは、「議題第3号 子ども・教育に関する市長・教育委員会共通ビジョンの策定について」、御説明申し上げます。

説明に入らせていただく前に、議題に係る議論の進め方についてお話をさせていただきます。

本会議の議事進行は市長が行うこととなっておりますが、議題に係る議事進行を市長が行いますと市長の発言がなかなかしにくいこともあり、議題に係る進行は事務局にてとらせていただきたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

さて、前回の総合教育会議では、大綱の策定について「この大綱を策定する機会を好機ととらえ、当該2つの構想を基本とするものの、教育部門と福祉や子育て部門との連携深化を図ることなどを目指した、日野市らしい、子ども・教育に関するビジョンを合わせて掲げていくため、当会議において議論すること」が策定方針として了承されました。

本日、まず議論いただきたいのは、ビジョンに掲げる項目についてでございます。

恐れ入ります、資料No1-1をごらんください。

前回の会議での御意見、御提案を踏まえ、項目を挙げております。

ビジョンに掲げる項目数などもあるかと思いますが、まずはこのほかにテーマはないか、またどれかをまとめるというようなことであるとか、忌憚のない御意見をいただければと思います。よろしくお願ひいたします。

それでは、お時間もありますので、前回のものを踏まえた中で御意見を頂戴できればと考えております。いかがでしょうか。

○西田委員長 きょうはどうぞよろしくお願ひいたします。

今、お話のありました資料No1-1でいただきました6つの項目を繰り返し読みまして、自分なりにこれを整理してみました。やはり順番としては、学校教育にかかわることを第1に持ってきてきたいと思います。それは先ほど市長さんもおっしゃいましたように、第2次日野市学校教育基本構想は市民の方々と一緒につくった大事な基本構想ですので、それをもとにしまして、柱に「地域と共につくる基本と先進の教育を推進します」をそのまま持ってきました。

さらに、具体的にどういう教育を推進するのかということについて、3つの基本方針をそのまま生かしまして「かかわりの中で個性を磨き合い、『21世紀を切りひら

く力』の育成」、「次代をつくる特色ある学校づくりと魅力ある学級・授業のデザイン」、「グローバルな視野をもったつながりによる教育」の3つを挙げました。

2つ目は、資料No1-1でまとめてくださいました1、2、3は、子育て・福祉部門と教育部門の関係機関相互の密接な連携のもとに行うという点で共通していますので、これらを1つにまとめました。柱を「子育て・福祉部門と教育部門の関係機関相互の密接な連携の下に、子どもの健やかな成長を支え合い、継続して育ちのサポートをします」としました。

そして具体的には「子どもの将来が生まれ育った環境によって左右されることのない社会づくり」、「ひとりで悩まず自信と元気を身につけたひのっ子を育てる社会づくり」、「いじめの未然防止と早期発見・解決の環境づくり」としました。

3つ目は、生涯学習の視点をここに置きたいと思いました。生涯学習の日野まなびあいプランをもとにしまして柱を「『学び 学び合う生涯学習のまち 日野』を市民ともに発展させます」としました。そして、このプランの3つをそのまま持ってきまして「『いつでも どこでも 誰でも』学べる環境づくり」、「学びを通した新しいつながりの創出」、「『学習成果』活かして地域社会に貢献」としました。

4つ目は、資料1-1のこの4番目の言葉を生かして柱を「郷土を愛する日野人として地域を創り上げていくひのっ子を育てます」として少しわかりやすくあらわしてみました。具体的には、書いてある内容を生かし「日野市にある河川、緑地、湧水、用水など豊かな自然環境や、大学や企業、地域で活動する団体等、様々な社会資源、地域の歴史や文化を子どもたちの段階的な育ちの中で有効的に活用」としました。

5つ目は、この5番目のところです。「本物に触れ、自主性に富んだひのっ子」という欄をこのようにまとめてみました。柱を「日野市の藝術文化を高め、藝術文化の薫る日野市を目指します」と「藝術文化の薫る日野」という言葉をここに使わせていただきました。そして、説明として書かれている内容が4つありますので、その4つをそれぞれ独立させて、具体例として「市内の芸術文化に係る資源の発展や発掘」、「藝術文化活動を行う環境整備」、「本物に触れる体験・主体的な活動の充実」、「『書く文化』『読む文化』『創る文化』の継承、発展」としました。これまでに日野市でつくってきた文化を継承し、さらに発展していきたいという願いを表現しました。

6つ目は「スポーツのレガシー創生」をそのまま生かし「スポーツのレガシー創生を図ります」としました。そして、この説明の文章を2つに分けて、具体例として「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催をきっかけとし、子どもや若者が持つエネルギーを余すことなく発揮できる環境整備」、「多様なスポーツに関わる機会の充実を図り、スポーツを『する』『観る』『支える』市民の輪づくり」としました。

できればここに健康について触れたいな、健康の部分が欠けているのではないかと書いていくうちに思いました。加えて食育についても触れたいと思いました。このようにして資料No1-1の6つにこれを整理してみました。あくまでたたき台です。

○仁賀田企画調整課長 どうもありがとうございました。

私どもが用意した資料をまとめていただいて、たたき台というような形でお話をいただいたところですが、これに対して各委員の皆様、御意見、またももとの資料に対する御意見でも結構ですが、ございましたら御発言いただきたいと思っております。いかがでしょうか。

○濱屋教育委員 委員長から御提案がありましたが、私も資料No1-1には、最初に今日的な課題が3つ指摘され、後の3つの項目で伝統、文化あるいはひのっ子から日野人への循環、スポーツのレガシー創生と大事なことが掲げられていると思うのですが、ここで原点に戻ってというか、3つの視点からコメントをさせていただきたいと思っております。

1つは、どんな子供あるいは人を育てたいのかということを出してもいいのではないかとことです。この2つの基本構想、学校教育基本構想と生涯学習基本構想に共通するテーマを考えてみたのですが、それは自ら学び、考え、行動する。そういう人を育ていくことではないかと思っております。

これは先ほど委員長が説明してくださった生涯学習基本構想の3つの視点、学ぶ、つながる、行動するにもかかわりますけれども、そういった自分なりの行動のルール、判断の基準をもって、人とのかかわりを通じながら、新しい世の中に向かい合っていく、そういう人が育っていくことが大事なのだと思っておりますので、そのような言葉を入れるといいのではないかとと思っております。

また、そのように育てたい人間像を明らかにした上で、主体的に取り組む子供たちを育てるためにはどういう授業が必要なのかという授業のデザインですとか、教育環境についても、加えてもいいのではないかと考えました。

2点目ですが、現在の日野市では特別支援教育に力を入れて、先進的な取り組みをしています。これをさらに充実、発展させていければいいと思っております。子供たちの中にはいろいろな配慮が必要なお子さんがありますので、そういった子供たちを包み込むような教育を推進していくことが大事なのではないかとと思っております。それは授業への参加を促進し、理解できる授業と、学んだことを習得し、活用するという学びが進化していくことが大事ですので、この点は強調してもよいのではないかとと思っております。

3つ目は、先ほど委員長も説明していただきましたが、生涯学習の視点です。大坪市長も諸力融合していくことが大事だとおっしゃっていますが、とても奥の深い言葉だと思います。私は人とのつながりも大事ですが、学んだことがつながっていくこともまた大事なのではないかと考えます。学校、企業、大学がつながっていくこともそうですし、学んだことが個にとどまるのではなくて、広く社会に生かされていく。そういった仕組みをつくっていくこともここで強調していければいいかと思っております。

まとめると、最終的な大綱の形がどうなるかわかりませんが、その中に自ら学び、行動する人を育てるということ。包み込まれる環境が用意されるということ。つながりがあるといった言葉が入るとさらによくなるのではないかと考えました。

以上です。

○仁賀田企画調整課長 どうもありがとうございました。

少し広がってきたかなというところがございますけれども、ほかにございますか。

高木委員さん、お願いいたします。

○高木教育委員 私自身も、5月に論議をして、きょう配付いただいています資料No 1-1の項目については、基本的にはこういった項目でいいのではないかな。かなり基本的な部分のテーマについては出尽くされているのかなと思いますので、追加等はないと考えています。

5月のときに確認をしているわけですが、日野市としては、市長もおっしゃられましたように、第2次の学校基本構想ですとか、生涯学習の推進の基本構想をベースに進めていくということですので、これらを含めて、ビジョンとしてどのようにまとめていくべきか。スタイルの問題にも絡むのですけれども、ざっくり言って、余り文章が多いとなかなか市民の皆さんにも見てもらえない。読みにくいなという取っつきにくさの問題もあるだろうし、そうは言っても、ワンフレーズで簡単でも、意味するところ、趣旨について理解しにくい部分があるので、多少、繰り返しになっても、今、委員長からもありましたように、内容について簡潔にまとめることが必要なのかなと思います。

ただ、その中で私自身は全体的な日野市の教育計画を考えたときに、この2つをベースにしながらも、全体をどうイメージするかということでは、例えば回転ごまをイメージしたときに、何を軸にするかという問題があるかもしれませんけれども、下をゼロ歳の年齢から上へと成長して大きくなっていく。要は回転の輪を広げていくというものをイメージしたときに、とりわけ学校教育の中では、今、学習指導要領の中でも知・徳・体が生きる力を強めていくということが文科省の方針として打ち出されています。

資料No 1-1をそういった視点で見たときに、多少乱暴ながら私の整理からいくと、貧困の問題も含まれていますけれども、資料の1、2、3は知・徳・体の徳に該当する部分かなという印象を持っています。ひのっ子から本物に触れという4、5については知の部分だなと。スポーツのレガシー創生というところでは体の部分かなという意味では、比較的バランスのとれた項目の選出の仕方にもなっているのかなと思います。

ただ、先ほども言いましたように、どうやって広く皆さんに日野市のビジョンを理解してもらうかという意味では、何かキャッチコピーがあったほうがいいのかという思いもあって、最終的にどういう整理をしていくかということもあるかと思いますが、私が陳腐な頭で考えて、委員の中でも、学びと育ちという言葉織り込んだ理念としてビジョンをまとめたほうがいいのかということがあるのですが、私自身はまさにその言葉を織り込んで、一つの案ではありますけれども、例えば「このまちで学び育てるひのっ子から未来を拓く日野人へ」と、こんなキャッチコピーはどうかと。日野人も最近いろいろところで目にしますし、生涯学習の中にも織り込まれていますし、もともとは元気という健康づくりの観点から出てきた概念かもしれませんけれど

ども、もっとこういった機会にある種の人物像としてのイメージをこれから織り込みながらつくっていくという観点でどうかなと考えています。

日野人に「未来を拓く」という形容詞をつけたのは、市政運営方針のビジョンワード等でもありますように「『可能性に満ちた未来』を拓く」ですとか、学校基本構想の中にも「21世紀を切りひらく力」を子供たちにつけさせようという思いでいろいろ取り組んでいますので、そんな思いを織り込んだキャッチコピーをつくりながら、広く市民の皆様に理解をしていただきながら進めたらどうかなという思いで、つたない提起になっていますけれども、そのようなことでの意見とさせていただきたいと思います。

以上です。

○仁賀田企画調整課長 ありがとうございます。

○岡本教育委員 ただいま司会の方からも、前回の議論を踏まえてというようなお話もありましたので、2つほどお話ししたいと思います。

基本的には、先ほど委員長初め、お三人の考え方と大体同じなのですけれども、全て網羅されているのではないかと思います。第1回目のときに私は申し上げたのですけれども、再三、皆さんからもお話が出ていますように「教育のまち 日野（第2次日野市学校教育基本構想）」「日野まなびあいプラン」をもとにやると市長もおっしゃっていましたので、ある意味、私はこれで十分というか、本当にしっかりとした骨格ができて、むしろ我々はそれに向かってスタートをしたと考えています。さらに「新！ひのっ子すくすくプラン」というものも出ていまして、幼児教育、子育ても踏まえて、我が市には今回のビジョンにかかわるものとして、この3つが根幹になっているのではないかと。

そういうことなのですけれども、前回の議論を踏まえてということでしたので、大綱としては、日野市のまちづくりと子供教育、そして生涯教育を含めて考えていくことがポイントであろうと思っております。日野市のまちの特色を考えていかなければいけないと思います。すなわち、子供が郷土をよく学び、理解し、私としてはたくましく育ててもらいたい。そしてひのっ子は教育目標にありますように「ひらこう 世界へ」ですので、一つの目標というか、これからの新しい時代の到達点というわけではないのですけれども、いわゆる郷土と、ローカルから発して、インターナショナルにつながる大切だと思うのです。

現在の日野市の状況を考えますと、例えばオープンイノベーションみたいなことが非常にまちづくりとして大事だなと思うのですけれども、機会均等を大切にする公教育の小中学校教育、それから地域の子育て機能が、世界へ開いていくための場のチャンスになる。そういう小さなとか、子供の頃のたわいないとか、私たちのつたない人生経験からしても、そういう思いが非常に強いと思います。思いがけないようなアイデアとか、自由な発想が噴出して、豊かなコミュニケーションが必要な子供の時代。それはまさにこのまちにとって必要なオープンイノベーションの始まりの時期だと考えているわけです。



次に、ビジョンのアウトプットというか、最終的なイメージにも絡むのですけれども、この主に2つの基本構想をこのビジョンに根底としてというか、はっきりと方針、施策が入っていますから、それを例えばきょう提出されました参考資料にあります環境方針の前段の背景になるような序があります。そういうところにはっきりとこの2つの既に骨格となっているものを中心に置くのだということ、例えば環境方針では7つぐらいありますが、市民の皆さんに訴えられるような、そうだなということ、詳細な施策についてはこの構想を見ればいいのだなと。安心して今回の新しいビジョンで市民の皆さんもそれに向かって我々も成長していこう、あるいは学んでいこうというような雰囲気になるようなスタイルがいいのではないかと思います。

そういう意味で、特に私は今まで出た議論につけ加えるようなコメントはありませんので、前回お話を申し上げたものについてつけ加えさせていただきました。

以上です。

○仁賀田企画調整課長 ありがとうございます。

教育委員の皆様から幾つか御意見をいただいたのですけれども、その辺を受けて、市長、御発言がありましたらお願いします。

○大坪市長 ありがとうございます。

1回目に比べて、おぼろげながらではありますが、だんだん見えてきたものがあるかなと今、皆さんのお話を伺っていて思いました。

資料No1-1ですけれども、市長部局サイドからの福祉とか、いじめとか、そういうようにどうしてもなってしまう。いわば否定的なことから出発してしまっているようなイメージの項目が並んでいるのかなという気はしております。どうしても私のほうからするとそうになってしまう。それはそれで必要なのだけれども、それだけではだめで、そもそも何のために大綱なのかということ考えた場合に、そもそも論があって、その上で貧困の問題、不登校、いじめの問題とかということがあるのかなという気はいたします。皆さんそういう形で随分きれいに整理されていて、非常にありがたいかなと思っております。それぞれ4人の方がおっしゃられたことは非常に有意義なことばかりでありまして、そもそも何のためということで、育ちとか、学びとか、そういうことがまずあって、その上でという仕切りですし、その上で知・徳・体という観点もありますし、岡本委員のおっしゃったこの時期のオープンイノベーションという視点も必要だということで非常に貴重な御意見をいただいたと思います。

私のほうもどうしても、この総合教育会議のスタートが、前回申し上げましたように、大津市にあるようなああいう出来事から出発していて、どうしても市長部局のほうから教育委員会のほうに、表現は悪いですが、手を突っ込むではないですが、そのような構えといいますか、変な勇み足ではないですが、そういうものがどうしても出てしまうのかなという気がいたしまして、それは余りよろしくないですから、できれば皆さんのおっしゃったような形でまとめていただいて、その中に、資料No1-1の中にあるような項目もしっかり入っていますので、そのような形がいいのかなという気がいたします。というのが今、伺っている感想でございます。

その点で、やはり教育といった場合の大切にすることとか、スタイルとかということがあるのかなという気がいたしますので、逆に私どもも福祉と教育と一緒にやっていく場合にその辺も意識しながらアプローチをさせていただくような意味合いでも非常に参考になる御意見をいただいたという気がしております。

○仁賀田企画調整課長 教育長、お願いします。

○米田教育長 第2次学校教育基本構想が始まって、例えば日野市内の中学生は昨年ものことも被災地の気仙沼に行って、その中で土地の人と触れ合い、向こうの中学校の生徒の皆さんといろいろな意見交換をする。第2次学校教育基本構想で「かかわりの中で」と一番初めに記したことが子供たちの学びを見ていて大事だなと改めて思います。子供たちは純粋で、極めて感性が豊かにかかわりの中で課題を捉えて、問いを深めて、そして何をすべきかというところまで考えていく。そういう学びをしていることが見えてきています。

中学生の生徒会サミットで、携帯の時代に我々がどう携帯とつき合っていくんだみたいな取り組みも始まっている。この取り組みは大人の学びにも通じるのだと思うのです。やはりいろいろなことにじかにかかわりながら、何が課題で、よりよくするためにはどうしたらいいのだ。実践までしていこうという学びが市長がいつもおっしゃる未来を拓くという力になるのかなと実感で思っています。

各委員がもう既にお話をされていまして、私はそんな感想を持ちました。

○仁賀田企画調整課長 ありがとうございます。

一通り皆様から御意見をいただいて、ある程度項目が入っているという御意見もいただいたところですが、そういう中でも、健康とか食育だとかというところもプラスできるのではないかと。そういう御意見もあったところでございます。

表現の仕方もあるかとは思いますが、まずはなるべく広く御意見を頂戴したいと思っておりますので、もう少し出せますという方がいましたら、御意見等を頂戴できればと思いますが、いかがでございますでしょうか。

○西田委員長 今、教育長がかかわりという言葉が言われたのですが、私は家庭の中の家族のかかわりということに大事にしたいと思っております。今、児童・生徒を取り巻くいろいろな問題が起きています。家庭が生活習慣をもっと厳しくしつけなければいけないとか、もっとこうこうと言っていくと本当に家庭を追い詰め、親を追い詰めていってしまいます。いわゆる家族のかかわりが悲壮になっていってしまっているといけない。家庭というのはもっと温かくて、個性があっていいと思うのです。

私がずっと考えているのは、家庭の文化ということです。難しいことではなくて、親には自分の得意とするものがそれぞれありますね。釣りが好きだとか、山登りを学生時代にやってきたとか、花づくりが好きだとか、野球が大好きだとか、歌うことが好き、弾くことも好きとかいろいろあると思うのです。読書が好きでみんなで読書を楽しむ家庭もあるでしょうし、お正月になればかるたとりで燃える。そのための準備をみんながするとか、それぞれいろいろな家庭があると思うのです。それを大事にして、「それはすごくいいことなのだ。それこそ家庭文化なのだ。それを大事にしよう

よ」という雰囲気をつくっていきたいと思うのです。その中で親は自信を持って、夫婦とか親子との愛情の中で子供たちにそれはしてはいけないことだとか、それは人としてすべきことだとか、それはルール違反だとか、それはマナーに反するとか、そういういわゆるしつけとか人間としての生き方を伝えていけるのではないかと思うのです。最近、もっともっと家庭はこうしなければいけないということをきつく言われるのですが、そうではなくて、角度を変えてもっと家庭の文化を大事にしながら、子供たちを豊かに育てていこう、みんなで家庭文化を豊かにして自信を持って子供の個性を伸ばしていこうという項目があっていいかなと、今、いろいろな不幸な事件がある中で考えています。

○仁賀田企画調整課長 ありがとうございます。

○西田委員長 言葉が足りなくてすみません。

○仁賀田企画調整課長 家庭の文化を大事にして、そういった中で子供たちを。

○米田教育長 そうすると、親が豊かに、親が親としてどんどん成長しなければ、そういうことも感じました。

○西田委員長 そうすると、親と子供と一緒に育っていくのですね。

○濱屋教育委員 今、委員長のおっしゃったのは教育基本構想の中で「豊かな愛情をもって子供とかかわり、一人一人の個性の伸長と自尊感情を育み、子供を包み込むよう家庭の受容力向上を目指します」ということにかかわると思います。ここで注意しなければならないのは、家庭の実態を見たときに、いろいろ経済的な苦境に面している家庭もあることです。そういった現況を考えると、日野市が戦略の一つとして挙げている「人口バランス・定住化促進戦略」にあるように、安心して出産から子育てができる総合的な子育て支援の取り組みが大事なことになるのかもしれないですね。

先ほどの資料No1-1の一番最初に挙がっている子供の貧困ともかかわりますけれども、社会の中にセーフティーネットをどう築いていくかということは今日的な課題ですし、どう取り組んでいくかということは考えなければいけない課題だと思います。

○仁賀田企画調整課長 ありがとうございます。

○岡本教育委員 今の委員長のお話ですけれども、ベースになる大事なことだと思います。それについても、「新！ひのっ子すくすくプラン」は、言葉は家庭とか何とかという、直接的ではありませんが、子供を育てる、また親を育てるというか、明らかにこのプランの背景にそういうようなものもありますし、多分、若いお母さんがこれを見ると、そうだなと納得すると思います。非常に大事なことで、ビジョンの中に言葉としてはともかく、そういうことが入ることは非常に素晴らしいと思います。

と申しますのは、私も他の委員会に出席させていただいているのですけれども、ここでは確かに子供たち、青少年もいろいろな課題等が議論されたり、報告されたりしていますけれども、そういう会議でつくづく感ずることは、別段、だから何もやる必要はないのだということではなくて、現在まさに取り組んでいると。例えば学校でも取り組んでいます。地域でも取り組んでいる。先ほどから出ています福祉と教育のことも、現場ではいろいろな形で、もちろん市もそういう仕組み、そういうようなシス

テム、そういうものを提示してやっていると思うのです。

そういうことで、今、学校では選べる学校制度というものがあります。私がかねがね選べるまちというか、日野市の宣伝ではないですけども、選ばれる日野市。現実にそういう声を聞きます。

したがって、ビジョンのイメージ、事務局からもこのように用意されて、先ほど申し上げましたように、全てのことが網羅されていると思いますけれども、そういった雰囲気が出るような。高木委員もおっしゃったように、ワーディングというのは非常に大事だと思うのです。事務局はそういう能力をたくさんお持ちの方がおられるので、ぜひこのビジョンのイメージに示されるようなワーディングもやっていただいて、ビジョンを読めば、日野のまちはいいなと。

もちろん教育は基本的なことで、市長がおっしゃっているようにこれからのまちづくりの根幹だと思いますので、そういう雰囲気を出していただければありがたいと思います。

○高木教育委員 今、委員長のほうからも家庭という話が出たのですけれども、先ほど自分自身は教育ビジョン全体を回りごまでイメージしていると。要は何が軸かという意味では、そういう意味の軸というのは、もちろん一人一人が軸にならなければいけないという部分はあるのですけれども、やはりふるさととか、郷土を愛するという、根源は家庭にあるのかなとは思いますが。家庭が大事だし、近所とはどうだったのか、地域がどうだったとかというのは、やはり学んで育っていく間に自分自身としてのふるさとというのか、郷土愛というのか、そういったところから醸成されていくのかなとも思います。またその中でいろいろな人のつながりの中で、自分自身も含めて、近所の年寄りからいろいろなことを教わりながら育ってきたということもあるので、なかなかその辺の人間関係を含めて、地域の関係が従来より希薄になってきているところがあるところ、今日のいろいろな問題、課題を発生させている部分もあるのかなと思います。

ただ、一方ではグローバル化だ何だと、非常に多様化といいますか、国内でも、昔はどちらかという和一億中流みたいなものに対して、子供の貧困がああなってきたように、経済的にも多様化といいますか、これは決して本人だけではなくて、社会的な動きの中で厳しい状況も出てきますし、その中でどう一人一人が大切にされながら育っていける環境なり地域をつくっていくのが大きな課題かと思えます。ただ、どう変えていきたいのだ、していきたいのだという思いを日野市として強く掲げながら進めていくことが、教育だけではなくて、まちづくりにもつながってくるのではないかと、そういう視点が大事かと思えますので、ぜひそのような方向性を持ちながらまとめることができればいいのかと考えていますので、よろしくお願ひしたいと思えます。

○大坪市長 家庭が大切というのはよくわかります。学び、考え、行動する、つながりというのは確かにそうなのですけれども、そもそものその人らしさというのはどこにあるか。さっき西田委員長がおっしゃったように、例えば釣りの話をしましたが、

うちではみそ汁はこうつくりますとか、みんな違うわけですね。そういう違った人々がその人らしさを背負って、その中で学び、考え、行動する。でも、その人らしさのベースはそこにあるから、そういう人々が出会って、また新しい部分が生まれてくるという意味では、しつけとか人間の生き方の基礎の部分はやはりその人らしさを支えているのはそれぞれの家庭だと思います。そういうそれぞれ違った文化を背負った家庭の男女が出会って結婚して、また新しい文化をつくっていくみたいなそういうものですから、その部分はどうしても考えていかなければならない気がします。

その中で、その家庭の教育力だとか、家庭のあり方が今、申し上げたような形になかなかない点があるから、そういう機能を果たせるようにするためにはどうしたらいいかということで環境整備とか、セーフティーネットの話もあったりするのかなという気がしますので、その視点は非常に大切だと思います。どうしても、学校教育になると学校での教育になったりしますし、やはりそこだけではない。生涯学習、まなびあいプランではもう少し家庭も含めて全体の広い視野での学びということになるとは思いますけれども、ベースになる部分の視点はどうしても必要かなという気がいたしました。

○仁賀田企画調整課長 ありがとうございます。

家庭というものが大切だと。そういう中で子育ての市長部局的な部分のお話もいただいたところでございます。

皆様からたくさんの意見を、もともとのものよりまたさらに広げた形にしていたところではあるのですが、大体お話をいただいたのかなというところもあるのですが、いかがでございませうでしょうか。

よろしいでしょうか。

○大坪市長 かなりまとめるのが大変。

○仁賀田企画調整課長 そうは言っても、これから少しまとめるほうをやっていかなければいけないかなと考えております。

○大坪市長 ビジョンワードという言葉も出たし、いろいろな思いを、長いセンテンスでということも出たけれども、ビジョンワードとか、いろいろなキーワードも出たことですし、これをうまく使っていけば日野市らしさが出るかなと思います。

○仁賀田企画調整課長 冒頭の市長の挨拶の中でも、既につくられているところ、既に大綱を制定しているところも幾つかございます。そういうところが、今、何人かの委員の方にお話をいただいた環境方針。うちで言う今回、参考として出させていただいている環境方針のような形でビジョンを掲げているスタイルと、もう一つは、本当にうちの各プランと同じような形で読み物のような形でまとめ上げているスタイルがございませう。

先ほど何名かの委員の方から環境方針のような形で思いを簡潔にまとめると。そういう中で前文のような形も取り入れてとかというような意見もいただいたところなのですが、大きなまとめ方からすると、環境方針のようなスタイルでというところが出たかなと思うのですが、皆様その方針という形でよろしいでしょうか。本がよかった

のだけれどもという方はあれなのですが。

○岡本教育委員 先ほど申し上げたとおりなのですが、委員長のお話を聞いていて、環境方針は1、2、3となっています。非常に短いセンテンスですね。そこに一つずつでもポチっと。言わずもがなかもわかりませんが、そういうようにやって、そういう中から暗に市民の方はそれを読んで、ああそうだな、「日野まなびあいプラン」を見ようとか、これも読んでみようと、やはり市民が積極的にいかないと、これは環境方針は、我々企業でもいろいろ持ってやっていますけれども、ともすると、標語みたいになってしまうところがありますので、大変難しいのですが、一つ一つの項目に対してもう一つ入れて、それを見た市民がさらに自分で進化できるというか、そういうようなものがあればいいのではないかと思います。

以上です。

○仁賀田企画調整課長 ほかにまとめ方で御意見等ございますでしょうか。

○高木教育委員 同じような認識なのですが、できるならばサイズは別にして、1枚というか、そういう中で全体像がわかるというか、文字数というのか、そういうことも大事なのかなという感じはします。なかなかその中で全てわかるということにはならないかもしれませんが、一方では、なるべく見てもらいたいという思いを伝えるためには、簡潔であるほうがいいのだろうなというのは感じますので、ぜひそのような視点でも、よろしくお願ひしたいと思います。

○大坪市長 1枚というのはA4に1枚ですか。

○高木教育委員 できれば。

○大坪市長 A3ではない。

○高木教育委員 A3ですか。なるほど。

○西田委員長 今、岡本委員がおっしゃったように、例えば日野市の藝術文化を高め、藝術文化の薫る日野市を目指すことを掲げたときに、それが具体的にどういうことなのかイメージが描けて、自分たちもその中にこう参加していこうとか、このようにみんなで作っていかうとか、そういう行動につながっていく具体的なイメージが描けるものであってほしいと思います。

○仁賀田企画調整課長 自信を持ってできますとは言えないのですが、思いは十分に伝わってまいりましたので、そこへ向けての努力をしたいと思います。スタイルからすると、皆さんの御意見としては、環境方針のような形でということでもめていくということでもよろしいでしょうか。

○大坪市長 形式は、一言あって、それをその後という形だけれども、その一言も大事だし、その下に入る言葉も、今、西田委員長がおっしゃったように、意味がわかる、イメージを思い浮かべて行動につながるような。

○濱屋教育委員 難しい注文ですね。

○岡本教育委員 それは事務局がやるから大丈夫ですよ。

○濱屋教育委員 相反する要請をしています。

○仁賀田企画調整課長 事務局のほうで調整をして、頑張ってもらさせていただきます。

○米田教育長 事務局の目の輝きを見たところで、このメンバーでそれぞれ2回にわたって意見をこの場で出させていただいて、ただ、内容によっては広く、このメンバー以外の方の意見を聞くことも必要かなと思うのです。ですから、そういう意味では、このメンバー以外の方のお話も聞ける準備もあわせてお願いできればと思うのですけれども、いかがでしょうか。

○西田委員長 ぜひお願いいたします。

○仁賀田企画調整課長 それでは、今後の進め方も含めて御説明をさせていただきたいと思います。

今後の進め方ですけれども、次回、第3回は11月24日の10時からを予定しております。内容としては、関係者をお招きして、意見交換をしたいと思っておりますけれども、テーマにつきましては、きょうのまとめも含めて事務局のほうで検討させていただいた上で、関係者を招集するというところで、ある程度お任せをいただきたいかなと思っているところでございます。今の予定でいけば、第4回として来年2月というところで、その辺でビジョンが固まればというところが当初からお示しをしている予定というところですので、今のところそういう形で進めていきたいと思っておりますので、御協力をよろしくお願いいたします。

あと、きょうお配りしている中で、もう一つ、資料No1-2というものをお渡ししています。総合教育会議の議事録でございます。前回の議事録となっておりますので、こちらは御確認をいただければというところで、よろしくお願いいたします。

大体、本日の議題につきましては御議論いただいたのかなというところでございますので、市長のほうへお返ししたいと思います。

○大坪市長 ありがとうございます。

まだ言い足りない方はいらっしゃいませんか。よろしいですか。

では、次回に向けてということで、きょうのいろいろな意見出しの取りまとめ、いろいろな方面の意見もさらに聞いていく必要があるということで、次回の予定が示されました。これで本日予定いたしました議題は全て終了いたしました。

それ以外に皆様から特に何かございますでしょうか。

よろしいですか。

それでは、本日予定いたしました案件は全て終了いたしました。

これをもって、平成27年度第2回「日野市総合教育会議」を閉会いたします。

御協力ありがとうございました。

閉会 11時05分